

こんにちは。
町長です。

観光について考える



夏本番となり、小鹿野町にも多くのお客様が来訪する季節となりました。

夏休みは、特に児童・生徒や学生の夏合宿、家族連れのお客様が町に訪れます。

秩父地域の1市4町等で組織する秩父地域おもてなし観光公社の推計によると、秩父地域の入込観光客は約900

万人となっていますが、そのうち小鹿野町の入込観光客数は約45万人と秩父地域全体の約5%です。

秩父地域の入込観光客数は、順調に増加しております。これにはいろいろな要因が考えられますが、秩父地域は首都圏でありながら豊富な自然や祭りなどの文化資源に恵まれていることや、鉄道会社等によるテレビCM放映、市町等の観光誘客の様々な事業展開などによるところが大きいと考えられます。観光客も「近い、安い」がひとつの観光地を選ぶ基準になっていると思います。

ところで、世界的な観光立国であるスイスでは、入込観光客の計算基準を宿泊数にしているとのこと。秩父地域の入込観光客のほとんどが日帰りのお客様であると存じますので、今後はいかにお客様に宿泊していただけるか、そのための受入体制の充実、特に、お客様が宿泊して楽しんでいただけるような多様なソフト事業などのメニューの確保が求められます。観光客の消

費単価をいかに上げるかがポイントです。そして、リピーターを確保することも重要です。リピーターは、交流人口から今後大切になる関係人口になれる人達が多く含まれていると思います。

また、これからの増加が見込まれる外国人客をいかに誘客するかも大きな課題であります。特に、外国ではキャッシュレス化が進み現金決済はしないことが普及しています。これらの対応も観光消費の拡大には喫緊の課題であります。外国人客は東京や京都などの有名観光地だけでなく、これからは豊かな自然や文化のある町に注目してくれるものと思います。

さて、小鹿野町は鉄道がない町であり、観光客が入り込む場合には自家用車や鉄道駅からのバス利用がほとんどであります。したがって道路交通網の整備は小鹿野町の生命線であります。幸いにも平成30年3月に西関東連絡道路国道140号皆野秩父バイパスが国道299号に接続し、小鹿野町へのアクセスは向上いたしました。今後は、国、県に対し西関東連絡道路の延伸や秩父市内へ直結するトンネルの開削整備の要望活動には力を入れてまいります。

更に重要なことは交通インフラだけでなく、情報発信で、いかに小鹿野町の本来の魅力や本当の宝を発信できるかがポイントになります。今後は観光から雇用を創り出し、外貨を稼ぐ地域経済の柱のひとつに成長させていかねばならないと存じます。

小鹿野町長 森 真太郎